

■基本フレームとりまとめに向けた検討工程

第1回検討委員会(発足)
3/27

第2回検討委員会
4/27

第3回検討委員会
5月中旬以降

第4回以降

● 本県におけるアリーナの必要性・担うべき役割、アリーナの主要な用途・規模感、予定地活用・周辺まちづくりとの連携について議論

● 第1回検討委員会での議論も踏まえて、基本フレームのとりまとめに向けて、次の各論点について議論をいただく

● 第2回検討委員会までの議論を踏まえ、基本フレーム(案)の作成に向けてさらに具体的な議論をいただく

● サウンディングを踏まえて、基本計画を取りまとめ

■基本フレームの構成案と主な論点(ご意見いただきたい事項)

基本フレーム構成	論点
1 目的・コンセプト	<ul style="list-style-type: none">● 本県のアリーナとして相応しい目的・コンセプトはどのようなものか。
2 アリーナの担うべき役割 社会的価値・経済的価値	<ul style="list-style-type: none">● 本県のアリーナが担うべき役割は何か。● 本県のアリーナが担うべき社会的価値としてどのようなものがあるか。
3 アリーナの用途・規模の 考え方 必要機能・付帯設備	<ul style="list-style-type: none">● 本県のアリーナの用途をどのように想定するか、その規模をどのように想定するか。● 本県のアリーナの用途に合った必要機能や望まれる付帯設備はどのようなものか。
4 予定地活用の方向性	<ul style="list-style-type: none">● 本県のアリーナの目的・コンセプト、担うべき役割を効果的に果たす予定地活用はどのようなものか。● 予定地・周辺エリアの諸課題に対してどのように対応するか。
5 整備・管理運営手法の 考え方	<ul style="list-style-type: none">● 本県のアリーナの目的・コンセプト、担うべき役割を効果的に果たし、県の財政支出軽減に寄与する整備・管理運営手法はどのようなものか。
6 アリーナ事業推進上の 課題	<ul style="list-style-type: none">● 本県のアリーナ事業(整備・運営)を進めるうえでどのような点に留意すべきか。

1 目的・コンセプト

- 県民にとって楽しく誇りになるアリーナ、愛されるアリーナ、誰もが観戦・アクセスできるインクルーシブなアリーナをつくる
- 県民にとって、これまでにない新しいライフスタイルが芽生え、経済活性化のハブ・プラットフォーム・場所になるアリーナをつくる
- アスティとくしま、市立体育館との役割分担は明確にした上で、県外の人が「徳島アリーナはこういうアリーナ」と明確に感じ取れるアリーナをつくる
- 東京や世界からコンテンツを持ってきてその瞬間だけ賑わい、それ以外のタイミングは寂しい、とならない日常でも賑わう場所をつくる

2 アリーナの担うべき

役割

社会的価値・経済的

価値

- まちのシンボル・象徴的なコンテンツとなる、アリーナが地域社会の共創の場になり、コミュニティが豊かになる
- 核家族化していく社会の中で、アリーナ・プロスポーツ観戦を通じてコミュニティを再形成し、心身共に健康でいられる、健康寿命が延びることに寄与する
- アリーナがハブとなり、地域経済活性化や社会課題の解決に寄与し、ファン文化を醸成することで、まちなかの賑わいを創出し、徳島県の魅力を発信する
- スポーツ観戦以外の催事(成人式や入学式、学会など)を行うことで、県民の思い出の一コマになり、県民の誇りになる
- 周辺住民の災害時の備え・安全・安心の確保をはじめ、徳島県の防災対応力を強化する拠点としての機能を高める
- 徳島県が関わる公共サービスとなる場合は、経済的価値だけではなく社会的価値も合わせたKPIを設定することが重要

3 アリーナの用途・規模 の考え方 必要機能・付帯設備

- 5,000席なのか10,000席なのかでインパクトは大きく変化する、特に交通への影響が考えられるほか、建物の規模・事業費・運営収支も大きく変わる
- 「競技を行うための施設」、「観戦を楽しむ施設」、「地域のシンボルとしてにぎわう施設」の視点のなかでどのようなカテゴリを目指すか明確にすることが重要
- 現地観戦する時に感じる大観衆の熱気・満席感(着席率約80%以上)は「また来たい」と思わせる源泉、その満席感と経済性とアジャストさせることが重要
- 県民のライフジャーニーを捉え、将来にわたって現実的にどんな人をどれくらい集めていくか、その上で満席感を実現できる規模を設定することが重要
- 規模検討に際して、国際大会ができない・狭いといった意見も出てくるだろうが、県民が「いつも満員のアリーナで楽しい」と感じる状況を生み出すことが重要
- 満席がプレミアム感を生む、満席になったらそれに対応していくやり方はいろいろある(アメリカのCOSM、街中でのパブリックビューイングなど)
- ガンバロウズ徳島のB.PREMIER基準での用途を視野に入れて、徳島ヴォルティス(J2)の集客規模を参照しつつ適切なアリーナの席数規模を想定したい
- ライブなどのコンサート需要から見て、全国あらゆる場所で1万人規模を作ってしまうと満席にするのが大変な状況がある、これまでコンサート需要の目安となっていた1万人規模のコンサートは、大規模スタジアム(東京ドームなど)1カ所で複数公演するレジデンス型になっている
- 今後少子高齢化で人口構成が変わる中、アーティスト側が5,000人~7,000人規模を選択することが増える可能性がある、大阪までの旅費分を徳島で加算して付加価値を提供する興行を打つことが今後の一つのモメンタムになる、アーティストに選んでもらい喜ばれるようなものをどうつくるか

(つづく)

(つづき)

3 アリーナの用途・規模 の考え方 必要機能・付帯設備

- 5～6,000人の規模感であれば、コンテンツを外から持ってきて賑わいをつくるだけではなく、**県民がスポーツに限らないコンテンツを自ら作り出す発想**も生まれる
- スポーツゲーム利用や、音楽のエンタメ利用など複数の用途が想定される中で、**施設機能設備が中途半端にならないよう**留意する必要がある
- 様々な制約の中で、例えば席の配置を工夫して**高機能・コンパクト化**を追求し、**他県のものとは違うユニークなアリーナ**を作るために工夫していく必要がある
- スポーツゲーム以外の様々な催し物の主催者・参加者が、「あのアリーナでやりたい」と思ってもらえる価値がある**ユニークバニユーの志向・設計**を入れていくべき
- アリーナにラウンジ機能を設けるなど、徳島県内外の企業の**ビジネスマッチングの場**として活用される機能も見据える
- 最近のアメリカのアリーナの傾向として、センターハングビジョンは首が疲れてコンサート時に邪魔になるため、徐々にサークルビジョンに変わっている
- ラスベガスのSphere(スフィア:球体型の大型シアター)を参考に、半面をLEDにして客席は全て逆側に設け、6,000～7,000席に設定すれば、スポーツ、コンサート、学会発表等でもスクリーンを使え、パブリックビューイングも可能になる
- **身体、精神、知的それぞれ障がいの方が安心して楽しめる**ことが重要(車椅子でのアクセス・移動、音声でのアクセス・案内、視覚情報保障、分かりやすいサインなど)
- 最大5mの浸水が想定される中、**防災拠点としての安全性を確保し、様々な障がいのある方も安全に避難できる機能・動線を確保**する
- スタジアム外周のコンコースを舗装してランニングに利用できるとか、スタンド下にボルダリング施設をつくるなどいろいろな工夫があると良い

- | 構成 | 方向性（第1回委員会でのご意見） |
|-----------------|---|
| 4 予定地活用の方向性 | <ul style="list-style-type: none">● ファンは価値があれば歩いてでも行く、どう魅力的な価値のあるコンテンツ・場所をつくれるか、スポーツ観戦の前後の体験価値も提供することが重要● チケットを買えなかった人がアリーナ外でも観戦を楽しめる機会・場所をつくれれば、賑わいができて地域経済活性化につながる● 「バスケットを観戦するための場所」だけでなく、「遊びに行きたくなる場所」、「ホスピタリティが充実した場所」となる設計が大切● 応援の文化次第では揺れ、騒音などが生じるので対策が必要● アリーナ規模に応じた来場者がスムーズにアクセスできる機能、まちなかへの回遊性も視野に入れたシャトルバス運行など、良好なアクセス環境の整備が必要 |
| 5 整備・管理運営手法の考え方 | <ul style="list-style-type: none">● 必要規模を確保してできるだけ高機能でコンパクトに、建設費や維持管理費をできるだけ縮減する視点が重要● プロフィット化を目指すことが重要、賑わいの生まれる場所を目指していけば、プロフィット化もついてくる、投資していただきやすい環境をつくれると良い● 民設民営も含めた官民連携での整備・管理運営手法を見据え、PPPの仕組みのなかでどのように官民で役割分担をしていくかという今後の議論になる |
| 6 アリーナ事業推進上の課題 | <ul style="list-style-type: none">● 様々な障がいのある方がアリーナに行って自宅に帰るまで、安心して楽しく過ごせる、ユニバーサルなアクセス・動線を確保する● 徳島駅など主要交通結節点から迷わずにアクセスできる仕組み、楽しく歩ける周辺まちづくりも重要 |

徳島アリーナ規模検討の類型

スポーツ ゲーム時	規模:5,000席	規模:約6,000~7,000席	規模:約8,000~10,000席	
主な 規模重複 施設	<ul style="list-style-type: none"> ■アスティとくしま (最大5,000席) ■高知県立県民体育館 (約5,000席※再整備検討中) ■グリーンアリーナ神戸 (約5,000席) 	<ul style="list-style-type: none"> ■あなぶきアリーナ香川 (約6~7,000席) ■愛媛県武道館 (約6,500席) ■舞洲アリーナ (約7,000席) 	(公設) <ul style="list-style-type: none"> ■Asueアリーナ大阪 (約10,000席) ■エディオンアリーナ大阪 (約10,000席) 	(民設) <ul style="list-style-type: none"> ■GLION ARENA KOBE (最大10,000席)
参考事例	<ul style="list-style-type: none"> ■OPEN HOUSE ARENA OTA (太田市総合体育館) ※Bホームチーム: 群馬クレインサンダーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ■あなぶきアリーナ香川 (香川県立アリーナ) ※Bホームチーム: 香川ファイブアローズ 	<ul style="list-style-type: none"> ■沖縄サントリアアリーナ (沖縄アリーナ) ※Bホームチーム: 琉球ゴールデンキングス 	<ul style="list-style-type: none"> ■GLION ARENA KOBE (神戸アリーナ) ※Bホームチーム: 神戸ストークス
施設 概要	<ul style="list-style-type: none"> ■延床面積 約10,600㎡ ■駐車場台数 約1,480台(公園内) 	<ul style="list-style-type: none"> ■延床面積 約29,000㎡ ■駐車場台数 約100台(公共交通推奨) 	<ul style="list-style-type: none"> ■延床面積 約27,700㎡ ■駐車場台数 約1,000台(周辺共用含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ■延床面積 約32,204㎡ ■駐車場台数 約800台(周辺共用のみ、公共交通推奨)
事業費 概算	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費(2023年竣工・実績値):約82.5億円 地方創生拠点整備交付金、企業版ふるさと納税等を活用(オープンハウスグループ約40億円) ■工事費単価上昇反映試算:約120億円 	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費(2024年竣工・実績値):約225億円 主に県費・地方債等で整備 ■工事費単価上昇反映試算:約285億円 	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費(2021年竣工・実績値):約162億円 沖縄振興特定事業推進費、防衛省再編推進事業補助金等を活用 ■工事費単価上昇反映試算:約285億円 	<ul style="list-style-type: none"> ■整備費(2025年竣工・実績値):非公開 ■工事費単価上昇反映試算:一
事業 手法	<ul style="list-style-type: none"> ■DB/指定管理(利用料金制) ■指定管理料:約100百万円(年間) ■施設管理運営者:株式会社群馬シティマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ■従来方式/指定管理(利用料金制) ■指定管理料:977.5百万円(約7年間合計) ■施設管理運営者:香川アリーナコンソーシアム 	<ul style="list-style-type: none"> ■ECI方式/指定管理(利用料金制) ■指定管理料:313百万円(約5年間合計) ■施設管理運営者:沖縄アリーナ株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ■民設民営/(定期借地契約による官民連携事業) ■管理運営費:非公開 ■運営会社:株式会社One Bright KOBE

スポーツ ゲーム時	規模:5,000席	規模:約6,000~7,000席	規模:約8,000~10,000席
<p>参考事例</p> <p>敷地活用 まちづくり 連携</p>	<p>■ OPEN HOUSE ARENA OTA (太田市総合体育館)</p> <p>■ 市民の「する」スポーツ・健康づくり活動拠点としても機能</p> <ul style="list-style-type: none"> メインアリーナもアマチュア利用を可能、市民の「する」スポーツや健康づくりの活動拠点としても機能(市の体育館のため) 太田市運動公園内に位置し、公園内の他運動施設と一体的に利活用されたスポーツイベント等も開催 <p>■ 日常の交流を促す施設配置・動線計画と事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント利用可能なオープンスペースと隣接する園路とサブアリーナがシームレスに配置、日常的な来訪・交流促進 公園内の通路や広場の整備を行い、施設はフラット化、利用者が安全・安心に利用できる施設となるよう工夫 <p>■ オープンスペースを活かした事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 試合日を中心にクラブと連携したマルシェ開催、賑わい創出 <p>■ 防災拠点機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 600人分の食料品やブランケット備蓄、災害時に1,000人程度の避難者受入可能、インフラ遮断時にも3日程度機能維持 <p>■ 環境配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンハウス・V-Power・おたおた電力の連携事業によりホームゲーム時に再生エネ電力100%利用 	<p>■ あなぶきアリーナ香川 (香川県立アリーナ)</p> <p>■ サンポートエリアと連携したイベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> アリーナが立地するサンポートエリアのオープンスペースを活用したマルシェ等と連携したイベントを実施 サンポートの賑わい創出を目的としたプロジェクションマッピングの実施 <p>■ 公共交通利用誘導と街なか回遊を促す特典の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺のホール等と連携し、公共交通利用やサンポートエリアでの滞在・消費を促すキャンペーンを実施 「サンポートスマートアクセス応援施設」…公共交通で来場+アンケート回答者を対象に、サンポートエリアの施設・お店で割引等の特典を受けられる 「まちなかアリーナ応援店」…アリーナのイベント参加者を対象に、街なかの店舗で割引等の特典を受けられる 「まちなかアリーナ応援パーキング」…アリーナのイベント参加者を対象に、指定駐車場の駐車料金を割引 <p>■ 防災拠点機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時には、救援物資の一次(広域)物資拠点支援施設としての役割を担う(基本計画より) 	<p>■ 沖縄サントリーアリーナ (沖縄アリーナ)</p> <p>■ 市民に開かれたアリーナの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域共栄型のアリーナ」をコンセプトに、メインアリーナ・サブアリーナをはじめとする様々な諸室を活用し、子ども向けのスポーツ教室の開催、地域交流、教育分野連携(模試会場としての利用)等を多数実施(市の体育館のため) 地域文化の振興と若者の活動支援の一環として、沖縄全島エイサーまつりに参加するエイサー団体へ練習場を提供 <p>■ Park-PFIによる民間開発の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> アリーナ整備による人流の増加等を背景に、沖縄市コザ運動公園Park-PFI事業として、民間投資によりホテル・コンビニ・駐車場等を整備 <p>■ 無料シャトルバスの運行によるコザ地区への周遊誘発</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲーム開催日に中心市街地のコザ地区とアリーナを結ぶシャトルバスを運行し、試合観戦後の中心市街地での飲食・滞在を創発 <p>■ 防災拠点機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の広域物資拠点(一次拠点)に指定され、大規模災害時等における支援物資の輸送拠点として機能 <p>■ GLION ARENA KOBE (神戸アリーナ)</p> <p>■ まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本初270度海に囲まれた突堤に建つ水辺のアリーナは、神戸ウォーターフロントエリアの新たなランドマークとして、365日を通した賑わいづくりを目指し、新たな魅力と活力ある都心・ウォーターフロントの創出に寄与 2024年2月に「港湾環境整備計画」として認定を受けたアリーナ周辺の緑地(エリア名称「TOTTEI PARK」)に建設される建物は、アリーナと一体で運営 <p>■ 民間活力を活用した手法の採用</p> <ul style="list-style-type: none"> 3社企業(㈱スマートバリュー、㈱NTTドコモ、NTT都市開発㈱)コンソーシアムによる、民設民営のランドマークプロジェクト アリーナ運営を行う㈱One Bright KOBEとチーム運営を行う㈱ストークスが一体運営を行うことで、より自由度の高い事業展開を実現 <p>■ 全国で初「港湾環境整備計画制度(みなと緑地PPP)」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 収益施設の運営によって得られる収益の一部を公共整備や緑地の維持管理に還元することで、地域経済の活性化や住民サービス向上に寄与 <p>■ 防災拠点機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 市の災害時における神戸市帰宅困難者支援に係る協力事業者として一時滞在施設に登録され、アリーナ活用を通じた自助・共助を取り組む

来場計画の検討と周辺環境の課題整理

●広域図（徳島駅や周辺商業施設からの位置）



●計画地周辺航空写真(周辺環境状況:騒音、振動、光害等への配慮)



●徳島東環状線整備概要(計画地東側の道路環境)



来場計画の検討と周辺環境の課題整理

● 計画地周辺図(計画地周辺状況)

【来場計画検討の必要性】

- * 少なくとも5000人以上が来場
- * 公共交通による来場誘導も図る

① Bリーグホームゲームの場合:

県内から自家用車で来場する人の割合が高い可能性があり、車両の渋滞対策が課題

② 大規模コンサート等:

県外からの来客が一定以上あり、公共交通や徒歩で来場する人に対するアクセスが課題

【交通アクセス・周辺環境の課題】

- ① 周辺にバス停はあるが現状では想定される来場ニーズに応えることが難しい(便数が少なく公共交通手段が不足している)
- ② 周辺に住宅・店舗・集合住宅が近接しており騒音・振動等の問題が発生する可能性がある
- ③ 周辺は交通量が多く、計画地内での駐車場台数の確保にも限界があり、興行時には大規模な渋滞が発生する可能性がある

